

# vivo

水戸芸術館音楽紙 [ヴィヴオ]

## 5-7

MAY/JULY  
2008

### CONTENTS

水戸室内管弦楽団 第72回定期演奏会	
＋ヨーロッパ公演情報	1～2
水戸室内管弦楽団 第73回定期演奏会	3～4
SELF PORTRAIT ぐるっぺ・ローゼン	4
最近の公演から	4～5
インフォメーション	6



写真上:水戸室内管弦楽団 第67回定期演奏会(指揮:小澤征爾)より  
写真下:水戸室内管弦楽団 第66回定期演奏会(指揮:準・メルクル)より

## ヨーロッパへ三度、飛翔するMCOの姿をご覧ください。

● 5/28(水)、29(木)、30(金) 水戸室内管弦楽団 第72回定期演奏会

いつも水戸室内管弦楽団(MCO)をご支援くださっているvivo読者の皆様に、まず、お礼を申し上げます。水戸室内管弦楽団(MCO)第72回定期演奏会のチケットは、おかげさまで完売いたしました。ありがとうございました。2006年12月の第67回定期演奏会以来となる、小澤征爾音楽顧問のMCO定期演奏会登場。皆様からの大きな期待を、スタッフ一同実感しています。

そしてその熱気には、第72回定期演奏会に続いて行われる、MCO史上3度目のヨーロッパツアーへの期待も、含まれているように思われます。より正確には、定期演奏会終了後ただちにヨーロッパツアーへと向かうMCOの姿を、耳に、目に焼きつけておきたい、という期待。だとしたら、これほど嬉しいことはありません。

そう、MCOは2001年以来、7年ぶりに、3度目のヨーロッパツアーを敢行します。日程と場所は以下の通りです。6月3日(火) ミュンヘン/会場:プリンツレゲンテン劇場。6月5日(木) ウィーン/会場:ムジークフェラインザール。6月8日(日) フィレンツェ/会場:テアトロ・コムナーレ。6月10日(火) マドリード/会場:オーデトリオ・ナショナル・ド・ムジカ(国立音楽堂)。6月12日(木) パリ/会場:シャンゼリゼ劇場、以上の5箇所です。各公演地については、公演準備のために制作担当の関根学芸員が2月に現地を訪れましたので、関根から紹介いたします(2ページをご覧ください)。そして第一三共株式会社の特別協賛、外務省の後援、文化庁の助成、全日本空輸株式会社の協力を初めとする各方面からのご支援により、このツアーは実現することになりました。深くお礼申し上げます。

さて、プログラムを構成する各曲目について見ていくことにしましょう。演奏会前半は、モーツァルトに捧げられた内容です。冒頭は、モーツァルトの名作オペラ、〈コシ・ファン・トゥッテ〉K.588 序曲。MCOにとっては、初めて演奏する曲目となります。〈フィガロの結婚〉と並ぶモーツァルト後期の傑作喜劇であり、男たちが自分の恋人の貞節を試すという奇想天外な心理劇である〈コシ・ファン・トゥッテ〉。その序曲は、快活で躍動的で、オペラの始まりを告げる期待感でいっぱい。劇中で歌われる〈女はみんなこうしたもの〉(コシ・ファン・トゥッテ)の旋律が先どりされて現れるなど、モーツァルトの才気があふれています。つづいてはMCOメンバーであり、ベルリン・フィルの首席奏者でもある世界的ホルンの名手ラデク・バボラークが独奏を務める、同じモーツァルトの〈ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調〉K.447(5月30日のみ(第4番) K.495が演奏されます)。バボラークはすでに第62回定期演奏会(2005年7月)で〈第1番〉〈第2番〉〈第4番〉を演奏しており、これでモーツァルトのホルン協奏曲全4曲を演奏したことになります。全4曲は録音され、ソニー・クラシカルからCD発売が予定されていますので、ご期待ください。

ここで一転、現代日本を代表する作曲家であり、ヨーロッパでも人気の高い細川俊夫による〈ピアノとオーケストラのための「月夜の蓮」〉が登場します。とはいえこの曲、「モーツァルトへのオマージュ」という副題が示すとおり、モーツァルトの〈ピアノ協奏曲 第23番 イ長調〉K.488の第2楽章に靈感を受けて書かれています。2006年12月の第67回定期演奏会で、小澤音楽顧問の指揮、児玉 桃の独奏

によって日本初演されたこの曲、「現代曲はどれも苦手…」という方からも、その深い神秘性と抒情への大きな感銘の声をいただきました。作曲者の細川俊夫は、プログラム・ノートでこう書いています。「静かな明るい月夜、蓮の花は蕾のまま、月光を受けて、開花に向かって、夢にまどろむ。その夢の中には、かすかにモーツァルトの音楽への憧れ(西洋音楽への憧れ)が託される。」ピアノ独奏を務めるのは、第67回定期演奏会と同じく、パリを拠点に国際的な活躍をくり広げるピアニスト、児玉 桃です。

モーツァルトに捧げられた前半に対し、後半は一転ベートーヴェン。〈交響曲 第4番 変ロ長調〉作品60です。これまでMCOはベートーヴェンの交響曲のうち〈第2番〉(第17回定期演奏会[1994年4月]および第45回定期演奏会[2001年3月]、第2回ヨーロッパツアー[2001年3月]、以上、小澤音楽顧問指揮)、〈第1番〉(第52回定期演奏会および福岡公演[2002年11月]、若杉 弘指揮)、〈第8番〉(第66回定期演奏会[2006年11月]、準・メルクル指揮)を演奏していますが、〈第4番〉はこれが初めて。「2人の北欧神話の巨人(第3番〈英雄〉と第5番〈運命〉)の間には生まれたギリシアの乙女」というシューマンの評がたいへん有名で、その抒情的なキャラクターについて語られることが多い〈第4番〉ですが、近年は、その快活な生命力と、随所に盛り込まれた大胆な発想が、いっそう注目されるようになってきました。

このプログラムは、ヨーロッパツアーで演奏されるものと同じ内容です(ホルン協奏曲は〈第4番〉が演奏されます)。第1回ヨーロッパツアーではストラヴィンスキー〈プルチネッラ〉、第2回ヨーロッパツアーではラヴェル〈マ・メール・ロワ〉、プロコ



写真左から：ミュンヘン（プリンツレゲンテン劇場）、ウィーン（ムジークフェラインザール）、フィレンツェ（テアトロ・コムナーレ）、マドリッド（オーデイトリオ・ナショナル・ド・ムジカ [国立音楽堂]）、パリ（シャンゼリゼ劇場）

フィエフ（古典交響曲）などMCOの類稀な合奏能力をアピールする近代の作品が曲目に含まれていましたが、今回はモーツァルト、ベートーヴェンというドイツ・オーストリア音楽の王道と、現代日本の作品。ドイツ・オーストリア音楽でMCOの音楽性を正面からヨーロッパの聴衆に問い、現代日本の作品

によって西洋音楽を吸収・消化した日本人の「今」を伝える——まさに、直球勝負のプログラムだと言えるでしょう。

残念ながらチケットをお買いただけなかったお客様、どうかご安心ください。5月28日（水）の演奏会は、今年も、千波湖ふれあい公園にて、大スク

リーンでの中継が行われます（雨天の場合は水戸市民会館）。そしてこの日の演奏会は、NHK茨城県域デジタル放送にて、同時中継されます。5月末の水戸は、小澤征爾とMCOに彩られます。《矢澤》

### ●ヨーロッパ公演情報●

#### ミュンヘン

ベルリン、ハンブルクに次ぐドイツ第3の都市ミュンヘンは、ドイツ南部のバイエルン州の州都で、文化の香り高い都市。モーツァルトやワーグナーが愛し、またR.シュトラウスが生まれた街としても知られています。MCOがミュンヘンを訪れるのは、2001年のツアーに続いて2度目で、今回も前回と同じくプリンツレゲンテン劇場で演奏会を行います。この劇場は、19世紀後半のバイエルン国王ルートヴィヒ2世が、愛するワーグナーの楽劇をいつでも自由に上演できるように建てられた劇場で、「バイロイト祝祭劇場の王様専用版」とでも言うべき由緒ある会場です。MCOの演奏会は、ミュンヘンの音楽プロモーター、ヘルトナーゲル（HÖRTNAGEL）が主催する「プロ・ムジカ」という定期会員向けの6回のコンサート・シリーズに組み込まれています。ダニエレ・ガッティ指揮のウィーン・フィル、準・メルクル指揮のリヨン国立管弦楽団、ヘルベルト・ブロムシュテット指揮のバンベルク交響楽団といった世界的なオーケストラと肩を並べての出演です。

公演情報：[www.hoertnagel.de](http://www.hoertnagel.de)

#### ウィーン

「音楽の都」として名高いオーストリアの首都ウィーン。モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、マーラーなど多くの大作曲家がウィーンで活躍したことはご存じのとおりで、その息吹は現代のウィーンを歩いても感じられます。このウィーンの国立歌劇場で、我々がマエストロ小澤征爾音楽顧問が芸術監督を務められていることには、日本人としてあらためて誇りを感じずにはいられません。さて、MCOが演奏会を行うムジークフェラインザールは、ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートでもおなじみの、世界の音楽家が憧れる音響の素晴らしいホールです。MCOは1998年、2001年もここで演奏会を行っていますが、いずれも楽友協会が主催するシリーズに入っています。今回は

“Internationale Kammerorchester”（国際的な室内管弦楽団）というシリーズに入っているほか、有名な「ウィーン芸術週間」の一環のコンサートでもあります。MCOの前の日（6月4日）がアルフレート・ブレンデルのリサイタル、次の日（6月6日）がマウリツィオ・ボリーニのリサイタルという豪華さです。その他、リッカルド・ムーティ指揮のウィーン・フィル、マリス・ヤンソンス指揮のアムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団など錚々たる顔ぶれが「ウィーン芸術週間」を飾っています。

公演情報：[www.musikverein.at/](http://www.musikverein.at/)

#### フィレンツェ

ルネサンス運動の発祥の地であり、街全体が美術品にもたとえられる文化都市フィレンツェ。1998年、MCOが初めてフィレンツェを訪れた際、突然の停電で会場が真っ暗になっても寸分狂いもなく演奏し続けたことで「奇跡のオーケストラ」と呼ばれ、話題になりました。以来、小澤 & MCOはフィレンツェから特別な歓迎を受けており、2001年の公演も大喝采を浴び、さらに今回もぜひにと招聘されました。会場は、前2回と同じテアトロ・コムナーレです。今回も、第71回を迎える有名な音楽祭「フィレンツェ5月音楽祭」への出演となります。コンサート出演の顔ぶれには、座付きのオーケストラであるフィレンツェ5月音楽祭管弦楽団がズビン・メータ、リッカルド・ムーティなどの指揮で演奏会を行うほか、リッカルド・シャイー指揮のライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ラドゥルブルー（ピアノ）などの名前が見られます。

公演情報：[www.maggiofiorentino.com/](http://www.maggiofiorentino.com/)

#### マドリッド

過去2回ヨーロッパ・ツアーを行っているMCOですが、第3回目にして初めて訪れる国がスペインです。マドリッドは、地理的にもスペインの中央に位置する人口400万人を越える首都です。マドリッドに住む人びとは、闘牛やフラメンコだけでな

く、コンサートにオペラに芝居に美術に、あらゆる文化芸術を広く受け入れ、心から楽しむ術を知っているようで、街は活気に溢れています。マドリッドでMCOはどのように受け止められるのでしょうか。会場は、1988年にスペインが国をあげて建設したオーデイトリオ・ナショナル・ド・ムジカ（国立音楽堂）という近代的なホール。演奏会は、マドリッドの音楽プロモーター、イバールムジカが主催する定期会員向けの12回のコンサート・シリーズ「アリアーガ」に組み込まれています（小澤 & MCOのほか、フレリー・ゲルギエフ指揮のロンドン交響楽団、ファビオ・ルイーゼ指揮のドレスデン・シュターツカペレなどが出演）。小澤 & MCOのチケットは、何と昨年の夏には完売してしまったという人気ぶりです。

公演情報：[www.ibermusica.es/](http://www.ibermusica.es/)

#### パリ

文学、美術、音楽、演劇などの伝統的な芸術のジャンルはもちろん、映画やファッション、サブカルチャーにいたるまで、ありとあらゆる文化の中心地とも言えるフランスの首都パリ。ヨーロッパを代表する歴史的な文化都市をめぐる第3回MCOヨーロッパ・ツアーを締めくくるに最もふさわしい都市がパリと言えるかもしれません。2001年に訪れたときはサル・プレイエルでしたが、今回はシャンゼリゼ劇場で公演を行います。シャンゼリゼ劇場は、パリ・オペラ座のような伝統的な劇場に対抗し、1913年、新時代の芸術表現に即した劇場として建設されました。その最初のシーズンに、ロシア・バレエ団によるストラヴィンスキー「春の祭典」を上演し、その前衛的表現が歴史的なスキャンダルを巻き起こしたことは有名です。以来、フランスの音楽文化を代表するホールとしての評価を確立し、今日ではウィーンのムジークフェラインザールと同じように、音楽家にとって憧れのホールとなっています。演奏会は、パリを代表する音楽プロモーター、アルベール・サルファティの主催により実施されます。

公演情報：[www.theatrechampselysees.fr/](http://www.theatrechampselysees.fr/)

《関根》

写真左:準・メルクル

写真右:水戸室内管弦楽団 第66回定期演奏会より



## 準・メルクルとMCOの三度目の邂逅

### ● 7/5(土)、6(日)水戸室内管弦楽団 第73回定期演奏会

6月のヨーロッパ公演を経て、再びホームグラウンドである水戸に戻って来て、7月に行われるのが第73回定期演奏会です。指揮者に準・メルクルを迎え、R.シュトラウスの〈メタモルフォーゼン〉、〈クラリネットとファゴットのドゥエット・コンチェルティーノ〉、ベートーヴェンの〈交響曲 第6番 作品68『田園』〉というプログラムでお贈りします。

#### ●若きマエストロ、準・メルクル

日本人が西洋音楽に接することの意義を探究しようというのが、MCOの活動理念のひとつです。実は、このようなMCOの理念と密接に関わる、日本と西洋という枠組みを超えた存在の一人とも言えるのが、準・メルクルです。彼は1959年、ミュンヘンで、ドイツ人ヴァイオリニストの父と日本人ピアニストの母との間に生まれました。ハノーファー音楽院に学び、その後、チェリビダッケに師事。さらにタングルウッド音楽祭に参加し、バーンスタイン、そして小澤征爾に学んでいます。ドイツに生れ育ち、西洋文化を自身の根幹とする一方で、日本との関わりという点では、身体的な血の繋がりはピアニストの母から、そして音楽家として日本人がおよそ150年の歳月にわたって繋いできた魂は小澤征爾から受け継いでいるのです。

指揮者としてデビューしてからの経歴を簡単に紹介しましょう。93年ウィーン国立歌劇場の〈トスカ〉でデビュー。以来、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン劇場、バイエルン州立歌劇場などに客演し、94年からはマンハイム州立歌劇場の音楽監督および芸術監督を務めています。コンサート指揮者としても、北ドイツ放送交響楽団、パリ管弦楽団、ボストン交響楽団、NHK交響楽団などに客演しています。さらに、2005年からフランスのリヨン国立管弦楽団の音楽監督に、07年からライプツィヒのMDR交響楽団(旧・ライプツィヒ放送交響楽団)の音楽監督に就任しています。

さて、そんな準・メルクルがMCOと共演するのは今回で3回目となります。最初は04年6月の第57回定期演奏会。プログラムは、ヴァーグナーの〈ジークフリート牧歌〉、ハイドンの〈交響曲 第101番『時計』〉、武満 徹の〈雨ぞふる〉、シェーンベルクの〈浄夜 作品4〉。2回目は06年11月の第66回定期演奏会。プログラムはR.シュトラウスの組曲〈町人貴族作品60〉、ブリテンの〈セレナード 作品31〉(テノール独唱:イアン・ボストリッジ、ホルン独奏:ラデク・バボラーク)、ベートーヴェンの〈交響曲 第8番 作品93〉です。この過去2回の演奏会に共通しているのは、オーケストラならではの構成美を誇るシンフォニック(交響

的)ないわゆる『器楽的作品』と、叙情に溢れ優美に紡ぎ上げられた歌謡的な旋律をもつ『声楽的作品』の両方が含まれたプログラムとなっている点です。それは、歌劇場とコンサートホールのどちらの指揮者としても国際的な地歩を固めている、メルクルならではのプログラミングであると言えるでしょう。

#### ●プログラムについて

今回のプログラムは、ドイツ・ロマン派の幕開けの時期の作品(ベートーヴェン作品)と終章を飾る時期に書かれた作品(R.シュトラウス)から構成されています。

そして、過去2回のプログラムと比べると今回は、一見、交響的な作品ばかりが並べられているように感じられます。しかし、今回演奏されるどの作品にも、その背景には、作曲家たちの強いメッセージの込められたテキストの存在を感じさせるような、声楽的な情感が息づいているのです。

それぞれの作品について、簡単にご紹介しましょう。

R.シュトラウスの〈メタモルフォーゼン〉は、1945年、つまり第二次世界大戦の終戦の年に書かれた作品です。シュトラウスは、戦争によって、ドイツの多くの都市やそこで培われてきた伝統的な文化や風土が破壊されてしまったことに対する悲しみとともに、この作品を書き上げました。曲の最後の9小節目の箇所には「追悼!」と書き込まれ、続いてベートーヴェンの〈交響曲 第3番『英雄』〉の〈葬送行進曲〉の冒頭が表れることで、この作品がドイツの死を悼む音楽であることが明かされています。作曲家により指定された23の楽器(10ヴァイオリン、5ヴィオラ、5チェロ、3コントラバス)それぞれが独立したパートを演奏する、非常に精緻な音楽です。

R.シュトラウスの〈クラリネットとファゴットのドゥエット・コンチェルティーノ〉は、1947年に作曲された作品です。シュトラウスの創作において、1943年以降の作風に対して「インディアン・サマー」と呼ばれることがあります。人生の晩年に訪れる穏やかな日々、いわば、人生のなかの小春日和というような境地を指しています。この作品はまさに、このような情趣を混えています。書法としては、近代的な和声の響きを持つ一方で、モーツァルトを範とする古典的な構成、バロックの合奏協奏曲の風合いをあわせもつ作品であると言われています。

ベートーヴェンの〈交響曲 第6番 作品68『田園』〉は、今さら言うまでもないほど有名な作品です。作曲されたのは1808年。耳を患った後のベートーヴェンは、ことさら自然を愛するようになっていたそうで

す。この作品は『田園』という副題を持っていますが、このことについてベートーヴェン自身は「絵画的な描写ではない。田園での喜びが、人々の心の中に引き起こす、いくつかの感情を描いたものである。」と語っています。そしてこの作品を作曲した後で、彼は次のような文章を残しています。「田園にいれば、私の不幸な耳も、私をいじめない。そこでは樹が語りかけ、森の中では喜びを与えてくれる。これらをすべて表現することができるだろうか――」

杜甫の有名な漢詩「国破れて山河あり……」の世界にも通じる、国家滅亡の嘆きと自然への賛美が込められたプログラムを、三度目の邂逅を果す準・メルクルとMCOの演奏で、ぜひ、お楽しみいただけます。

以下、メルクルさんにインタビューを行いましたので、どうぞお読みください。 【中村】

— 過去2回の共演を通じて、水戸室内管弦楽団(MCO)について、どのような個性や特徴をもった楽団であるとお考えですか。

メルクル:MCOは非常に国際的なオーケストラです。国内外で活躍する日本人演奏家を中心に、ヨーロッパやアメリカからの演奏家を含んでいるので、国際色豊かなアイデアを持ったオーケストラと言えるでしょう。

— 今回のプログラムについて、お尋ねします。R.シュトラウスとベートーヴェン作品から成る今回のプログラムの構成について、マエストロはどのようなお考えをお持ちですか。

メルクル:MCOのような小編成のオーケストラで演奏できるレパートリーを考えたとき、このシュトラウスとベートーヴェンの作品が頭に浮かびました。シュトラウスでは演奏において細かいテクニックが必要とされます。また前回もシュトラウスを取り上げたので、その継続という意味で今回再び取り上げます。

ベートーヴェンにおいては、このオーケストラのサイズこそが作曲当時のオリジナルのサイズなのです。したがって、MCOの演奏では、当時のサウンドが再現できることとなるでしょう。

— R.シュトラウスの2作品は、いずれも晩年に作曲された作品ですが、これらについてコメントをお願いします。

メルクル:これらの作品では、彼の人生を感じ取ることができるでしょう。つまり、彼の溢れんばかりのエネルギーだけでなく、壮大なオペラ作品や交響詩の作曲家としての経験を垣間見ることができるのです。作品の隅々が豊かな表現と色彩で彩られていることが見て取れるでしょう。

— R.シュトラウスの〈クラリネットとファゴットのドゥエット・コンチェルティーノ〉の独奏者であるフランソワ・ソゾー氏(クラリネット)とオリヴィエ・マッソ氏(ファゴット)は、お二人ともマエストロが音楽監督を務められているリヨン国立管弦楽団の首席奏者です。お二人について、ご紹介いただけますでしょうか。

メルクル:ソゾーさんとマッソさんは二人ともリヨン国立管弦楽団の古くからのメンバーで、共に同楽団の首席奏者です。ソゾーさんはフランス人で、マッソさんはフランス人とベルギー人の混血です。二人とも経験豊かで、様々な演奏スタイルに精通してい

ます。気さくで話すことが好きなので、すぐにオーケストラのメンバー達と打ち解け、絶妙なアンサンブルを聴かせてくれるでしょう。

— 前回の共演(2006年11月、第66回定期)では、ベートーヴェンの〈交響曲 第8番〉をマエストロは指揮されました。そして今回は〈交響曲 第6番『田園』〉を取り上げられます。マエストロは水戸室内管弦楽団との共演でどのようなベートーヴェン作品の演奏を目指していらっしゃるのでしょうか。

メルクル:小編成ならではの良さを活かして、細部に至るまでを細かく仕上げること、かつ、オーケストラとしての深みを持った音作りをしていきたいと思っています。

また、木管楽器と弦のバランスを上手くとり、構成をクリアに仕上げていきたいと思っています。

— マエストロにとってベートーヴェンの〈交響曲 第6番『田園』〉はどのような意味を持つ作品なのでしょうか。

メルクル:全ての音楽家にとって重要で、ベートーヴェン演奏の「根本」となる作品の一つと言えます。全ての年代において重要ですが、キャリアを積んだ演奏家にとっても非常に重要な作品となってくるでしょう。表題のとおり自然を表現しており、数あるベートーヴェンの作品の中でも皆に愛されています。

— 最後に水戸の聴衆に向けて、メッセージをお願いします。

メルクル:皆さんに再びお会いできることが、今から楽しみです。水戸の皆さんはいつも熱心で、高い集中力を持って演奏に耳を傾けてくださいます。水戸は水戸芸術館を中心に「芸術」に溢れており、芸術に対し高いモチベーションを持った方々が多いので、東京とはまた違った特色を持った都市だと思います。その都市で、再び演奏できることを心から楽しみにしています。

(協力:梶本音楽事務所)

## SELF

## PORTRAIT

〈魔笛〉〈蝶々夫人〉〈カルメン〉…  
オペラの聴き所を楽しく紹介する  
「ぐるっぺ」。

■ 6/22(日)  
Gruppe Rosen  
(ぐるっぺ・ローゼン)  
～オペラと出逢う日～

今回の演奏会に出演するメンバーのほとんどが、水戸芸術館で毎年行われる「茨城の名手・名歌手たち」の出身者です。その後も私たちは市民オペラや様々な演奏会で、一流の先生方にご指導いただき、聴衆の皆様へ暖かく見守っていただき、育てていただきました。そこで出会った歌仲間とは県内にとどまらず県外でも一緒に演奏してまいりま

した。そこで、ふるさとの皆様への恩返しの意味も込め、また、未来ある子供たちのために、私たちが何かできることはないかと思い、結成したのが「Gruppe Rosen(ぐるっぺ・ローゼン)」です。

“Gruppe”はドイツ語で「グループ」、「Rosen」は「薔薇」という意味です。茨城県の県花は薔薇なので、「茨城県にゆかりのあるメンバーで結成したグループ」という意味合いで名づけました。“Gruppe”は「ぐるっぺ」と発音します。ドイツ語のだけれども何となく茨城弁っぽく聞こえませんか？

さて、今回のプログラムは、「オペラと出逢う日」と題しまして、皆様にクラシックオペラをより身近に感じていただけるように選曲してあります。前半では、まずモーツァルト〈魔笛〉より有名なアリアや重唱を何曲もお送りします。アンサンブルの美しさや楽しさをぜひ味わってください。次に、プッチーニのアリアをお聴きいただけます。ちなみに今年にはプッチーニ生誕150年の記念の年です。プッチーニの傑作をどうぞお楽しみに。後半はフランスオ

ペラから、オッフェンバック〈ホフマン物語〉、ビゼー〈カルメン〉をお送りいたします。いずれも原語で演奏いたしますが、わかりやすい解説とともに進めてまいりますのでなたにも楽しんでいただけたと思います。それぞれの声種による役の重要性や国別のオペラの違い、原語の発音から受ける印象などもお楽しみください。

学校の音楽の授業やテレビのCMなどで流れている名曲ばかりですが、オペラ全体のストーリーなどを知ることによって、もっとその曲を理解できるように関心が広がると思います。より深くオペラを好きになるか否か。「絶対に好きになって！」とは言いませんが、この演奏会がそのいいきっかけになるよう願っております。オペラは総合芸術。見る、聴く、感じるでワンセット。少しでも皆様に体感していただけたら幸いです。

それでは、会場で皆様とお会いできますことを、メンバー一同心より楽しみにいたしております。

(文責:久保田尚子)

## 最近の公演から

MARCH  
APRIL



1

茨城笛の会 / 第28回日本フルートフェスティバル in 茨城 (3月9日)

茨城県内で活躍する30人を超えるプロフェッショナルのフルート奏者から構成される「茨城笛の会」による演奏会。指揮は青木 明さん。同メンバーに加え、7名の小学生、9名の中学生のステージが有り、さらに、県内各地より公募で集まった36名のアマチュアフルーティストによる「フェスティバルフルートオーケストラ」が今回の演奏会のために組織され、出演した。レスピーギ作品では、牧野英一さんの指揮の下、「茨城笛の会」と「フェスティバルフ

フルートオーケストラ」の合同演奏(総勢約60名)が行われた。古田 土勝市さん製作のバス、コントラバス、ダブルコントラバスフルートをはじめ、様々な音域をもつフルートによる、同一種の楽器ならではの透명한美しさをもつアンサンブルが実現されていた。演奏会に先立って、エントランスホールでフルートメーカー 11社による展示・リペア会と後藤晴美さん(フルート)と長澤 順さん(オルガン)によるプレ演奏が行われた。 《中村》

アンケートから●生のあたたかい音色を間近で聞くことができました。ステージが近くてびっくりし

1. 茨城笛の会



1



2



3



4



5



6



7

ました。フルートだけなのに奥行きのある演奏、すばらしかったです。(無記名の方) ●フルートオーケストラを初めて聞きましたが、すばらしい響きでした。若いフルート奏者が育っていることを頼もしく思いました。(水戸市:T.T.さん)

### 椎名雄一郎オルガン・リサイタル (3月10日)

水戸芸術館のオルガンをプロムナード・コンサートなどへの出演を通して14年前から弾き続け、今や国内外で高い評価を得ているオルガニスト・椎名雄一郎さんによるリサイタル。プログラムは、比較的に演奏機会の少ない、J.S. バッハの作品を源流とする19世紀ドイツのオルガン作品を中心とするものだった。具体的には、J.S. バッハ、カルク＝エラート、リスト、メンデルスゾーン、ブラームス、ロイプケのオルガン作品が取り上げられた。メンデルスゾーンやロイプケ作品など、高度な技巧を要する作品であっても、椎名さんの演奏はその困難さを感じさせず、自然体で作品の本質に迫ろうとする流麗この上ないものであった。そして水戸のオルガンを熟知している彼は、このオルガンの個性を大いに生かそうと、美しくも表情に富んだ、魅力的な音色を次々と創出していった。アンコールは、メンデルスゾーン：(6つのオルガン・ソナタ 作品65)より第6番の第3楽章。 (中村)

アンケートから ●面白い構成で楽しめました。演奏もステキでした。(無記名の方) ●パイプオルガンのCDでは味わえない響きを全身で感じる事ができてとても良かった。機会があればまた聴きたい。(無記名の方) ●18～19世紀のオルガン音楽の系譜をよくたどることができるプログラムでした。どの曲にもバッハの引用や影響が見え隠れしていますね。バッハの偉大さを感じずにはいられません。ロイプケの響きが新鮮でした。(無記名の方)

### 合唱セミナー 2008 (3月16日)

茨城県合唱連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部との共催により毎年開催している合唱セミナー。今回は、合唱指揮者の古橋富士雄氏をお迎えし、三善 晃編曲の(山田耕筰による五つの歌)から「赤とんぼ」、「待ちぼうけ」、「からたちの花」を取り上げた(ピアノ伴奏:生井澤紀江)。NHK東京児童合唱団を一から育て上げ、日本を代表する合唱団のひとつにまで導いた実績を持つ古橋氏の指導は、まさに合唱を知り尽くしたベテランならではの確かで、参加者に表現とテクニックのコツを与えていく。主催者の予想を超えてどんどんと講習は進み、午前の練習で予定の3曲は終了。午後は、それ以外の2曲「この道」と「ベチカ」を古橋氏みずから音取り指導をしながら練習した。最後は200人以上の参加者をステージに上げ、仕上げとして全曲を通して演奏。三善 晃の素晴らしい編曲によるこの

組曲を古橋氏の指導ですべて歌うことができ、結果的には大満足のセミナーとなった。 (関根)

### 小野智恵ピアノ・リサイタル (3月22日)

平成19年度「茨城の演奏家による演奏会企画」の最後を飾るのは、宮城に生まれ、現在は水戸を拠点に活躍するピアニスト(水戸の「梅大使」も務められた)、小野智恵さんのリサイタル。モーツァルトの(幻想曲)にはじまり、ジョリヴェ(5つの典礼舞曲)抜粋、ラヴェル(亡き王女のためのパヴァーヌ)(道化師の朝の歌)、ドビュッシー(前奏曲集 第2巻)抜粋と、近代フランスの名曲を旅するプログラム。小野さんは妊娠中でリサイタル当時決して体調がよくはなかったのだったが、それを感じさせない集中力で、ジョリヴェの呪術性からドビュッシーのエレガンスまでを鮮やかに描ききった。アンコールはハチャトゥリアンの(トッカータ)。 (矢澤) アンケートから ●蝶の様に強く力づくよく演奏され心に残る思い出に成りました(水戸市:R.S.さん) ●素晴しかったです。音色が豊かで、すてきでした(無記名の方) ●すんだおと、エネルギーが溢れ、でもしっとり(無記名の方)

### モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第2回】演奏とお話:野平一郎 (3月28日)

1年に2回ずつ、3年・全6回をかけて、モーツァルトのピアノ・ソナタ全18曲を年代順に聴いていく企画の【第2回】。モーツァルトが19歳のときミュンヘンで書いた6曲のソナタの最後の作品(第6番)と、21歳から22歳のときマンハイム・パリへの旅行中に書いた第7番から第9番までのソナタ、それに(きらきら星)という通称で有名な変奏曲K.265が演奏された。野平さんの知的かつスマートな演奏であらためてモーツァルトのソナタを年代順に追っていくと、モーツァルトの成長と進化がよりくっきりと透けて見えてくるようだ。また、モーツァルトの人生や彼が使っていた楽器などのお話も、野平さんならではのユーモアを交えながら楽しくかつ有意義だった。来年、再来年の続編もどうぞ期待下さい。アンコールは、グレットリーのオペラ(サムニウム人の結婚)の合唱曲(愛の神)による8つの変奏曲K.352(374c)。 (関根) アンケートから ●前回、今回と野平先生の優美で音色の豊かなモーツァルトのソナタ、実に幸せな一時でした。特に9番のソナタは、先生の全身全霊の一言一音が心が洗われました。(無記名の方) ●リズムカルに流れるように明るい曲調の第7番ハ長調がとても気に入りました。最後の9番のソナタは、私はリパッティの名演奏がとても好きなのですが、野平さんの演奏もとてもすばらしいと思いました。(東茨城郡:H.I.さん) ●演奏と巧みな話術の両方を楽しめました。第3回以降も全て聴きに來たいと思います。(笠間市:I.N.さん)

1. 茨城笛の会

2～3. 椎名雄一郎オルガン・リサイタル

4. 合唱セミナー 2008

5～6. 小野智恵ピアノ・リサイタル

7. モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第2回】

## 水戸芸術館の主な5-7月のスケジュール

### コンサートホール ATM

■ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル

5/10(土)18:30 開演 料金(全席指定):¥4,000

■水戸室内管弦楽団 第72回定期演奏会

5/28(水)、5/29(木)、5/30(金) 各日18:30 開演

料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000

■水戸芸術館友の会鑑賞会 ウィーン・アリスト・トリオ コンサート

～若林正人とウィーン・フィルメンパーたちとの楽しいトーク&コンサートを～

6/18(水)19:00 開演 料金(全席指定):一般¥3,500 友の会一般会員 ¥2,500 学生¥1,000

■Gruppe Rosen(ぐるっぺ・ローゼン) ～オペラと出逢う日～

6/22(日)15:00 開演 料金(全席指定):一般¥3,000 学生(大学生以下) ¥1,500

■水戸芸術館高校生音楽講座2008 [第2期]

第2回[ベートーヴェンを追いかける2:怒濤篇]6/27(金)17:00～19:00 参加費:1回券¥200

■水戸室内管弦楽団 第73回定期演奏会

7/5(土)18:30開演、7/6(日)14:00開演 料金(全席指定):S席¥8,000 A席¥6,500 B席¥5,000

■水戸市芸術祭 市民音楽会 7/12(土)、7/13(日)各日13:00 開演 入場無料

### エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート

5月:11日(日) 6月:21日(土)、28日(土) 7月:12日(土)、20日(日)、26日(土)、27日(日)

開演時間:12:00/13:30(2回公演)※7月27日のみ12:00/13:00

入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

□ゴールデンウィーク・スペシャル(親子で楽しむパイプオルガン・コンサート)

5/5(月・祝)12:00 5/6(火・祝)12:00 出演:柳澤文子 入場無料

### ACM劇場

■劇団唐組新作水戸公演『夕坂童子』

会場:水戸芸術館広場特設紅テント(雨天決行)

5/16(金)、5/17(土)、5/18(日) 各日19:00 開演

料金(全席自由):一般¥3,000 団体(10名以上) ¥2,700 学生 ¥2,000

■ACM百人劇場 喜劇『スリッパ、誰の?』

6/10(火)、6/11(水)、6/12(木)、6/13(金)、6/14(土)、6/15(日)

6/17(火)、6/18(水)、6/19(木)、6/20(金)、6/21(土)、6/22(日)

火・木・金・土曜日:19:00 開演、水・日曜日:14:00 開演

料金(全席指定):一般¥2,000 団体(10名以上) ¥1,800 学生 ¥1,500

■水戸市芸術祭 謡と仕舞の会 6/29(日)10:00 開演 入場無料

■劇団ダンダンブエノ七味公演『ハイ! ミラクルズ』

7/6(日)16:00 開演 料金(全席指定):A席 ¥5,500 B席 ¥3,500

■水戸市芸術祭 バレエフェスティバル 7/13(日) 料金(全席指定):各 ¥500

□シオンバレエ 14:00 開演 □瑞穂バレエ教室 16:00 開演

■水戸市芸術祭 三曲各流演奏会 7/21(月・祝)13:00 開演 入場無料

■水戸芸術館友の会鑑賞会『風間杜夫の落語独演会』

7/27(日)14:00 開演 料金(全席指定):一般 ¥3,500 友の会一般会員 ¥2,500

### 現代美術センター

■宮島達男 | Art in You

2/16(土)～5/11(日)9:30～18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日 ただし 5/5(月・祝)は開館します。

料金:一般 ¥800 / 前売・団体(20名以上) ¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

■水戸市芸術祭 いけばな展

5/23(金)～5/25(日)9:30～18:00(入場は17:30まで) 入場無料

※最終日は17:00 閉場、入場は16:30まで

■水戸市芸術祭 美術展覧会

□第1期【日本画・洋画・彫刻・工芸美術】

6/1(日)～6/13(金)9:30～18:00(入場は17:30まで)

□第2期【書・写真・デザイン・インスタレーション】

6/18(水)～6/29(日)9:30～18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日 入場無料

## 茨城の主な6・7月の演奏会 ※有料公演のみ

◆佐川文庫 TEL/029(309)5020

■～若手ピアニストシリーズ～菅藤奈津江ピアノ・リサイタル 7/26(土)18:00 開演

◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166

■第34回 茨城新人演奏会 6/8(日)13:00 開演

■錦織 健 テノール・リサイタル 6/28(土)15:00 開演

◆ギター文化館 TEL/0299(46)2457

■アリエル・アッセルボーン コンサート 6/8(日)15:00 開演

◆ノバホール TEL/029(852)5881

■ラ・プティット・バンド 6/1(日)15:00 開演

■村治奏一 ギター・リサイタル 7/6(日)15:00 開演

水戸芸術館音楽紙『ヴィーヴォ』2008年4月発行 第133号

編集・発行 / 水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集 / 水戸芸術館音楽部門 (五十音順): 佐川真美 関根哲也 中嶋美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP / 村田征司

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は…

ATM、夏から秋へ

## information

■チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000

営業時間/9:30～18:00(月曜休館)

■公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

■【ATM 便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

■茨城放送「タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング」内「タッチ・ザ・クラシック」

毎週水曜日朝6:50頃から約10分間

水戸周辺 1197KHz、土浦周辺 1458KHz

## 野村 誠のファミリー・ワークショップ ―いいかも、鍵盤ハモ!― 参加者大募集

日時:第1回 8月2日[土] 鍵盤ハーモニカで音遊び

第2回 8月3日[日] 鍵盤ハーモニカで曲づくり

第3回 9月20日[土] 鍵盤ハーモニカでアレンジ

第4回 9月21日[日] 鍵盤ハーモニカでステージへ!

※第1・2・3回:Aチーム13:00～15:00、Bチーム15:30～17:30

第4回:リハーサル11:00～ コンサート14:00～

会場:水戸芸術館コンサートホールATM

対象:ワークショップ全4回の日程すべてにご参加いただける、小学生以上の方(楽器演奏のご経験の有無は問いません。)

参加料(全4回):大人:4,000円 小・中学生:2,000円 ※鍵盤ハーモニカは各自ご持参ください。

定員:40名(定員に達し次第、締め切らせていただきます。)

応募方法:往復はがきに以下の内容を明記して、水戸芸術館音楽部門宛にお送りください。

- 往信用 裏面:住所・電話番号・氏名・年齢(ご参加される全ての方の氏名・年齢)・ご希望チーム「ご希望チーム」については以下の2つのチームのどちらかをお選びください。
- Aチーム:鍵盤ハモ・ビッグバンド(楽譜を一切使わずに、ゲーム感覚で曲作りや演奏をします。)
- Bチーム:鍵盤ハモ交響楽団(五線譜を使いながら、曲作りや演奏をします。)
- 返信用 表面:住所・氏名/裏面:何も書かないでください。(参加案内をお知らせします。)

はがき送付先 / お問い合わせ:

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8

水戸芸術館音楽部門「野村 誠のファミリー・ワークショップ」係

TEL029-227-8118 (担当:中村・中嶋)

## チケット・インフォメーション

### 〈5月10日(土)発売分〉

◎ミト・デラルコ 第11回演奏会

9/7(日)14:00開演 料金(全席指定):¥3,000

◎ちょっとお昼にクラシック EXTRA ①

8/6(水)13:30開演 料金(全席指定):¥1,200(ドリンク付)

※この演奏会では、託児サービスをご利用いただけます(定員20名)。

◎アンサンブルの愉しみ

～ヴァイオリン(城戸範子)、ヴィオラ(植村理一)、チェロ(城戸春子)による弦楽の響きと調和の世界～

9/15(月・祝)14:00開演 料金(全席自由):¥3,000

◎P-ブロック 鍵盤ハーモニカ演奏会

9/21(日)14:00開演 料金(全席自由):小・中学生 ¥500 大人 ¥1,000

◎ラデク・パボラークと仲間たち

9/26(金)18:30開演 料金(全席指定):¥3,000

※ミト・デラルコ第11回演奏会には、5月6日より友の会維持会員、5月7日より友の会一般会員の先行電話予約がありますので、5月6日の一般発売の時点で券種によっては、お客様のご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

### 〈チケット発売中〉

◎水戸芸術館友の会鑑賞会 ウィーン・アリスト・トリオ コンサート

6/18(水)19:00開演 料金(全席指定):一般 ¥3,500 友の会一般会員 ¥2,500 学生 ¥1,000

## これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右・裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル

5/10(土)……………完売

◎水戸室内管弦楽団 第72回定期演奏会

5/28(水)……………完売 5/29(木)……………完売

5/30(金)……………完売

◎ウィーン・アリスト・トリオ コンサート

6/18(水)……………中央△、左右・裏○

◎Gruppe Rosen(ぐるっぺ・ローゼン)

6/22(日)……………中央×、左右・裏○

◎水戸室内管弦楽団 第73回定期演奏会

7/5(土)……………中央×、左右・裏△ 7/6(日)……………中央×、左右・裏△

※4/13(日)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。